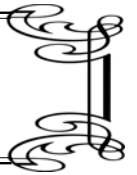


第63回西日本医科学生総合体育大会



医学部ラグビー部

平成23年度西日本医科学生体育大会において私たちラグビー部は初優勝を果たしました。優勝が決まった瞬間は興奮して、あまり実感が湧きませんでした。しかし、選手やマネージャーのみんなと喜びを分かち合い、応援に来てくださったOBの方々や父兄のみなさんに「おめでとう」と言われ、優勝した実感が湧き上がったのを覚えています。

ラグビー部は、5月に行われた九州・山口医科学生体育大会での二回戦敗退し、その時の悔しさをバネに西医体優勝を成し遂げるまでのチームに成長していきました。そのとき対戦した久留米大学は昨年の西医体でも対戦し、あと一步のところまで負けた相手でした。九山から西医体を迎えるまでの日々は幹部をはじめ、チーム全体が西医体優勝という目標に向けて一生懸命頑張りました。みんなで励まし合いながら、苦しいことも辛い練習も乗り越えて、確実に成長していきました。そして迎えた西医体の初戦は浜松医科大に12対0で勝利し、二回戦では宿敵の久留米大に15対0で勝ち、一気に勢いがつきました。三回戦は愛知医科大に24対7、準々決勝は広島大学に18対0、準決勝は福井大学に15対0で勝利し、決勝まで駒を進めました。決勝戦の相手は昨年久留米大学と同点優勝の大阪大学でした。結果は29対0で琉球大学の圧勝でした。この対戦成績で私たちが誇りに思うのが、優勝までの全六試合の中で許したトライはたった1トライだけだったということです。ディフェンス力の成長が掴んだ優勝と言っても過言ではありません。

ラグビー部がここまで強くなれたのは選手一人一人が努力してきた成果だと思います。しかし、決してそれだけではありません。全6試合という長い大会期間ずっと選手の世話をしてくれたマネージャーの支えなしでは、優勝は成し得なかつたろうと思います。試合前の



プレーヤーのテーピング、昼食の準備、宿の手配など挙げるときりがないくらい陰で働いてくれました。マネージャーの選手のケアが行き届いた結果、大したけがをすることもなく選手が万全の体勢で試合に臨むことができたと思います。

さらに、OB・OGの先輩方からの援助や応援なしでは優勝を果たすことは出来なかったと思います。部員一同心から感謝しております。

私たちラグビー部は10月から新チームをスタートし、九山は初優勝、西医体は連覇することを目標に頑張っています。自分自身、新幹部としてチームを引っ張っていく立場ですが、みんなに支えられながら「最高で最強」のチームを目指して頑張っていきたいと思っています。今後とも応援よろしくをお願いします。

ラグビー部部長 儀間義勝 (3年次)

